

令和3年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

令和4年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

令和3年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

【目次】

I 令和3年度FD活動の概要	1
1. 令和3年度の活動概要	2
2. 令和3年度 中期計画・年度計画	7
3. 令和3年度の主なFD活動一覧	8

I 令和3年度F D活動の概要

I. 令和3年度FD活動の概要

1. 令和3年度の活動概要

本年度は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年とは異なる方法を取り入れながら、以下のFD活動に取り組んだ。

まず、FD推進委員会及び学生・教職員FD活動交流会については昨年度に引き続き、Web会議形式で開催し、学生による授業評価はWebアンケート形式で実施し、ベストクラスの授業公開については中止とした。併せて、アクティブ・ラーニング研究会についても、教員養成・研修高度化センター（FDデザインチーム）との共催で計2回の研究会をWeb形式で開催した。

また、令和3年度年度計画12にある「組織的取組による全学的なFD活動を推進する」について、FD活動に関するウェブサイトの見直しを行った。

令和3年度は、FD推進委員会を6回、学生・教職員FD活動交流会を5回開催した。FD推進委員会各回の主な議題は、次のとおりである。

FD推進委員会における主な議題

第1回	令和3年度におけるFD活動の取り組みについて 令和3年度前期授業評価について
第2回 (メール審議)	「ベストクラスの選定について」の一部改正について
第3回	令和2年度開講授業科目におけるベストクラスの選定について 令和3年度後期授業評価について ウェブサイトの更新について
第4回	ウェブサイトの更新について アクティブ・ラーニング研究会の共催について
第5回	ウェブサイトの更新について 令和4年度授業評価項目の見直しについて
第6回	ウェブサイトの更新について 令和3年度FD推進委員会活動報告書の作成について

(1) FD活動に関するウェブサイト更新について

本年度は、昨年度の学生・教職員FD活動交流会で学生から聴取した意見を基に、本学のFD活動を積極的にアピールする方策として、FD活動に関するウェブサイトのリニューアルを行うこととした。本年度第1回FD推進委員会において、「FD活動に関するウェブサイト更新の基本方針」を策定し、来年度、新しいウェブサイトを公表する方向で取り組んでいる。

具体的には、「本学のFD活動」のウェブサイトのデザインを一新することに加え、*「Teaching and Learning Tips (仮称)」のページを実装する予定である。

＊「Teaching and Learning Tips : 授業改善と充実した学びのための事例検索システム」(仮称)

…これまでに蓄積してきた既存資源の再利用を図る。現在のウェブサイトで公表していた授業評価の「自由記述 主な記述一覧(学内専用)」、「授業改善の具体的指針」の「良い授業の構成要素」及び「ベストクラス選定理由書」をもとに作成。調べたいキーワードを検索し、関連する記述の抽出を行う。

(2) 学生・教職員 FD 活動交流会の学生メンバーシップについて

令和4年度に向けて、学生メンバーのFD活動へのコミットメントを高め、学生参画型FDをさらに推進するための工夫を講じる。これは、この取り組みが一つの学生活動として位置付き、長く根付いていくことを企図している。主な取り組みの内容は次のとおり。

- ①辞令やメンバーカードのようなものを交付する。年度当初に交付式のような場をセットし、「学生参画」と「教職協働」を基軸とした本学のFD活動についての共通理解を図る。
- ②自らを定義する呼称をあてる。たとえば、「学生 Faculty Developer」など。簡単なものだが、教職員と一緒に大学教育の質向上に取り組むメンバーとしてのアイデンティティの明確化をねらう。

(3) Web アンケート形式による授業評価実施

本年度も、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業がオンライン形式等で行われたことに伴い、前後期ともにWebアンケート形式で授業評価を実施した。併せて、昨年度、課題となった回答率の低下及び重複回答につながる実施手続き上の問題を改善するため、次のとおり実施方法を一部変更した。

〔主な変更点〕

- ・学生ごとに固有のID、パスワードを付与し、各自でログインした上で回答。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答(1科目について1回限り)し、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認することができる。
- ・各学期の回答が蓄積されていくため、いつでも過去の回答を参照することができる。

併せて、教職大学院実習科目の授業評価は、昨年度同様、Webアンケート形式(Office365 Forms)で実施した。

(4) ベストクラスの選定・公表

ベストクラスの選定については、令和2年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、12科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに12科目程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的にベストクラスが決定された。

また、決定したベストクラスについては、10月開催の研究科教授会で共有するとともに、本学Webサイトに選定理由書を添えて公表した。

(5) アクティブ・ラーニング研究会の実施

本年度のアクティブ・ラーニング研究会は、教員養成・研修高度化センター（FD デザインチーム）との共催で（Society5.0×Teacher Education 研究会として）2回実施した（下表参照）。

	開催日	講師	テーマ	共催
第1回	2021. 11. 18	松木健一氏 (福井大学理事・副学長)	教師教育と省察的实践	教員養成・研修高度化センター (FD デザインチーム)
第2回	2022. 3. 2	中野民夫氏 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)	「教える」より「学び合う」 場を創ろう！オンライン &ハイブリッド時代の参加型授業のつくり方	教員養成・研修高度化センター (FD デザインチーム)

本学の教育課程あるいは教員養成スタンダードなどには、「省察」「リフレクション」という言葉をいくつもみつけることができる。「省察」「リフレクション」は、本学の教員にとっても学生にとっても、きわめて馴染み深い言葉になっている。しかしながら一方で、この「省察」「リフレクション」という概念の理解は、それほど容易でないとも思われる。「省察」「リフレクション」とは何かとあらためて問われても、なかなかすんなりと回答できないのが現状なのではないか。あるものは「振り返り」の代替として、別のものは「反省」の意味で使っているかもしれない。「内省」と同義だと考えているものもいるだろう。厳格に意味を統一する必要はないと思われるものの、これらの概念が教師教育の核心に位置し、教員の専門性や力量形成と密接不可離のものである限り、そして私たちが Teacher Educator の役割を誠実に果たそうとするなら、これらの概念に関する議論を日々繰り返し、それを通して思考を積み重ねていくことが切に求められているのではないか。第1回の研究会は、こうした問題意識を背景に企画・実施された。「教師教育と省察的实践」をテーマに、「実践科学の認識論」「教育実践を支える理論と実践の構造」などが具体的な取り組み事例とともに解説された。

本学の教員の多くはそれぞれの授業のなかで、ワークショップや参加型授業を展開しようと努力を重ねてきた。ただこの2年間はもしかすると、オンライン授業をとにかく実施することばかりに気をとられてしまったかもしれない。そうだとすれば、それぞれの授業が学生の学びにほんとうの意味で貢献するものになっているのか、あらためてきちんと吟味しておく必要があるのではないか。加えて、ワークショップや参加型授業を行う教員の多くがファシリテーターとしてのふるまいの難しさを実感しているのではないか。こうした現状認識のもとに、第2回研究会は企画・実施された。「ワークショップ」「ファシリテーション」をキーワードに、教員が一方的に「教える」よりも学生同士が「学び合う」場をどう調えたらよいのか、対面とオンラインの両方の具体的事例を通じて学ぶこととなった。

なお、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ベストクラス選定科目の授業公開・研究会は実施しなかった。

(6) 学生・教職員 FD 活動交流会の実施

本年度は、学生・教職員 FD 活動交流会を計 5 回開催した（下記参照）。

	内容
第 1 回	学生・教職員 FD 活動交流会、ベストクラスについて趣旨等の説明
第 2 回	ベストクラス選定作業
第 3 回	ベストクラス選定候補科目について発表、意見交換（ベストクラスの選定過程等について）
第 4 回	意見交換（授業評価のあり方について〔①授業評価の意味の再構成、②授業評価の実施方法（記名化、中間評価の実施等）〕）
第 5 回	意見交換（学生メンバーのメンバーシップについて、今年度、交流会に学生メンバーとして活動して感じたこと等）

例年、学生・教職員 FD 活動交流会はベストクラス候補となる授業科目の選定を主たる活動としてきたが、本年度は第 1 回学生・教職員 FD 活動交流会において本交流会及びベストクラスについて趣旨説明を行う機会を設けた。さらに、第 3 回から第 5 回では、上記の幅広いトピックについて率直な意見交換を行った。

(7) 今後の課題

ここでは主となる課題として、次の 2 つを取り上げて明記しておきたい。

第 1 に、「学生による授業評価」にかかる検討である。本学は平成 29 年度に授業評価項目を改訂し、平成 30 年度からその項目によって授業評価を実施している。『平成 29 年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』には、「ベストクラスの趣旨が教員と学生がともに作り上げる授業としているため、学生による自己評価項目を入れた点に今回の改訂の特徴がある」（p. 8）と記されている。平成 30 年度末には、学部生と大学院生を対象に『学生による授業評価』に関するアンケート」が実施され、改訂された授業評価項目の内容や実施方法等について意見が聴取されている。そこでは、改訂に概ね肯定的な反応が得られていたが、いくつかの課題も指摘されていた（詳細は『令和元年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』（pp. 11-13）参照）。たとえば、自由記述の充実、中間評価やオンラインでの実施の可能性などであった。なかには、授業評価の意味について問い直しを求める意見も寄せられた。こうした学生からの指摘に加えて、アクティブ・ラーニングのいっそうの充実やオンライン授業の拡充等、今般、大学教育に求められる状況が大きく変化していることが、「学生による授業評価」についての検討を後押しすることになる。

今後、吟味されることになる論点を例示しておこう。

(1) 授業評価の意味の再構成

(2) 授業評価の実施方法

①記名化

②中間評価の実施

とりわけ「(1) 授業評価の意味の再構成」について、説明を加えておきたい。これは、前記した「学生による自己評価項目」というねらいをいっそう進めるものにはほかならないのだが、「授業評価アンケートに回答する」という行為自体を学生の学びのプロセスの一つに位置づけるものであり、授業評価をいわゆる「学習としての評価（assessment as learning）」とすることを企図してのものである。

第2に、FDにかかるウェブサイトの大幅なリニューアルである。これは、今年度から継続する課題である。「FD 活動をもっとオープンにしていくべきではないか。それがより良いFD 活動につながる」「ベストクラス選定に関わった学生の体験談をアピールする」「参加する意味がある活動であることを、後輩に伝えていくべきである」。これらは、令和2年度第3回学生・教職員FD活動交流会（開催日：2020/11/16）の場で学生メンバーから寄せられた意見である。こうした意見がこのたびの取り組みを基礎で支えている。

今年度はウェブサイトの基本的な方針を策定したうえで、具体的なビジュアルデザイン等について決定した。それをふまえて来年度の課題となるのが、コンテンツのデザインである。その中心になると考えられているのが、「Teaching and Learning Tips（仮称）」の構築である。これは既存資源の再利用をねらい、これまでに蓄積されたFDに関する様々な資料をデータとして検索可能にするシステムである。たとえば、「自由記述主な記述一覧」として学内限定で公開される「主な高評価自由記述」や「主な低評価自由記述」、あるいは「授業改善の具体的指針」として公開された「良い授業の構成要素」、さらには平成26年度から令和2年度までの7年度分の「ベストクラス選定理由書」などが検索の対象となる。こうしたシステムが実装されることで、それが組織的な大学教育の質向上のための仕組みとして機能することが期待されよう。

今年度は5回にわたって学生・教職員FD活動交流会を開催してきた。そこでは数多くの実りある提言、示唆があった。ウェブサイトを、そうした学生メンバーの声を発信し、学生メンバーの思いに応える場にしたい。ウェブサイトを「育てていく」という発想に立ち、教職協働、学生参画のもと取り組みを推し進めていきたい。

2. 令和3年度 中期計画・年度計画

令和3年度のファカルティ・ディベロップメント推進委員会に係る中期計画及び年度計画は次のとおりである。

中期計画12	教育活動に対する評価結果を教育の質の向上や改善に結びつけるため、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会を中心とした組織的取組により、ベストクラスの選定、教員養成スタンダードのカリキュラムマップの改善等、全学的なファカルティ・ディベロップメント活動を推進する。
年度計画12	・ベストクラス選定，学生による授業評価，アクティブ・ラーニング研究会等の全学的なFD活動を推進する。

(実施組織：FD推進委員会)

中期計画03	厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果の分析を行い、授業改善の具体的指針を明確化する。また、卒業認定については、新入教員としての資質や能力を着実に育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って、卒業判定基準に基づき厳密に行う。
年度計画03	・令和元年度に定めた授業改善の具体的指針に沿って、引き続き授業改善を組織的に推進する。
中期計画06	厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果と教員養成スタンダード（大学院）の観点から、授業改善の具体的指針を明確化する。また、修了認定については、教育に関連する質の高い人材を育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って見直し、厳格化した修了判定基準に基づき厳密に行う。
年度計画06	・令和元年度に定めた授業改善の具体的指針に沿って、引き続き授業改善を組織的に推進する。

(実施組織：学部教務委員会(03)、大学院教務委員会(06) FD推進委員会(03, 06))

3. 令和3年度の主なFD活動一覧

日 付	事 項
令和 3年 5月27日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第1回）
令和 3年 6月 2日	第1回学生・教職員FD活動交流会 (学生・教職員FD活動交流会とベストクラス等について説明)
令和 3年 6月14日 ～17日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第2回）（メール審議）
令和 3年 6月22日	第2回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス選定作業）
令和 3年 7月 27日 ～9月30日	前期「学生による授業評価」実施
令和 3年 9月22日	第3回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス候補科目を選定）
令和 3年 9月29日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第3回）
令和 3年10月	令和2年度授業科目における「ベストクラス」を公表（大学Webサイト）
令和 3年11月18日	Society5.0×Teacher Education研究会（第1回）「教師教育と省察的実践」
令和 3年11月26日 12月 8日	第4回学生・教職員FD活動交流会（授業評価のあり方について意見交換）
令和 3年12月 9日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第4回）
令和 3年12月22日 ～ 3月23日	後期「学生による授業評価」実施
令和 4年 2月 7日 ～ 3月 4日	「兵庫教育大学教職大学院実習科目授業評価」実施
令和 4年 2月14日	第5回学生・教職員FD活動交流会（授業評価のあり方について意見交換）
令和 4年 2月21日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第5回）
令和 4年 3月 2日	Society5.0×Teacher Education研究会（第2回） 「「教える」より「学び合う」場を創ろう！ オンライン&ハイブリッド時代の参加型授業のつくり方」
令和 4年 3月29日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第6回）

令和３年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

資料編

令和４年３月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

Ⅱ 1 年間の活動実績

Ⅲ 資料

【目次】

II	1年間の活動実績	1
	1. FD活動に関するWebページ更新について	2
	2. 令和3年度「学生による授業評価」の実施について	5
	3. 「教職実践演習」にかかる「学生による授業評価」について	20
	4. 「ベストクラス」の選定・公表	55
	5. アクティブ・ラーニング研究会の実施	58
	6. 学生・教職員FD活動交流会の実施	64
	7. 令和3年度 他大学等のFD研究会等参加状況一覧	71
III	資料	72
	1. 本学におけるFDの定義について	73
	2. 兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み	74
	3. 国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程	75
	4. 授業公開の実施に関する申合せ	78
	5. 本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	79
	6. ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(令和3年度)	80

Ⅱ 1 年間の活動実績

1. FD 活動に関する Web ページ更新について

本年度は、昨年度の学生・教職員 FD 活動交流会で学生から聴取した意見を基に、本学の FD 活動を積極的にアピールする方策として、FD 活動に関する Web ページのリニューアルを行うこととした。本年度第 1 回 FD 推進委員会において、「FD 活動に関する Web ページ更新の基本方針」を策定し、来年度、新しい Web ページを公表する方向で取り組んでいる。

具体的には、「本学の F D 活動」の Web ページのデザインを一新することに加え、*「Teaching and Learning Tips (仮称)」のページを実装する予定である。

*「Teaching and Learning Tips : 授業改善と充実した学びのための事例検索システム」(仮称)

…これまでに蓄積してきた既存資源の再利用を図る。現在の Web ページで公表していた授業評価の「自由記述 主な記述一覧(学内専用)」、「授業改善の具体的指針」の「良い授業の構成要素」及び「ベストクラス選定理由書」をもとに作成。調べたいキーワードを検索し、関連する記述の抽出を行う。

F D 活動に関する Web ページ更新の基本方針

1. 目的, 経緯:

令和 2 年度の学生・教職員 F D 活動交流会（第 3 回, R2.11.16 開催）において, 参加した学生から, 「F D 活動をもっとオープンにしていくべきではないか。それがより良い F D 活動につながる。」「ベストクラス選定に関わった学生の体験談をアピールする。」「(F D 活動に) 参加する意味がある活動であることを, 後輩に伝えていくべきである。」等の意見があり, 本学の F D 活動を積極的にアピールする方策の一つとして, これまで十分ではなかった F D 活動に関する Web ページの大幅な見直しに取り組む。

2. F D 活動をアピールする対象者

本学学部・大学院への進学を検討している方々や本学の構成員（学生, 教職員）

3. 掲載すべき項目

本学における「F D 活動の定義」と主な「5 つの F D 活動」を柱として配置・作成

- ・本学における主な 5 つの F D 活動
 - ・ F D 推進委員会と F D 活動交流会
 - ・授業評価と評価方法改善
 - ・アクティブ・ラーニング研究会
 - ・ベストクラスの選定・公表
 - ・授業公開

4. 構成（仕分け）, デザインの基調

他大学の F D 活動に関する見やすくわかりやすいサイトを参考に検討・作成

5. その他の検討事項, 改善点

- ・トップページからの動線や配置の見直し
- ・ F D 活動に関するまとめサイトの構築
- ・新たな F D 活動に関する取組み
- ・アクセス解析（Google アナリティクス）の組込み

6. スケジュール

本年 11 月頃までに原案を作成し, 来年 3 月末までに業者に業務委託し, 改修する。
令和 4 年 4 月から Web ページ公表

7. 業務分担

主として, 山中 F D 推進委員会委員長, 石橋副委員長と学務課により行う。

以上

2. 令和3年度「学生による授業評価」の実施について

本年度も、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業がオンライン形式等で行われたことに伴い、前後期ともにWeb アンケート形式で授業評価を実施した。併せて、昨年度、課題となった回答率の低下及び重複回答につながる実施手続き上の問題を改善するため、次のとおり実施方法を一部変更した。

〔主な変更点〕

- ・学生ごとに固有の ID、パスワードを付与し、各自でログインした上で回答。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答（1 科目について1 回限り）し、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認することができる。
- ・各学期の回答が蓄積されていくため、いつでも過去の回答を参照することができる。

併せて、教職大学院実習科目の授業評価は、昨年度同様、Web アンケート形式（Office365 Forms）で実施した。

令和3年6月7日

授業担当教員 各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会
委員長 山中 一英

令和3年度前期「学生による授業評価」の実施方法の一部変更について

平素よりFD活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

令和3年度前期から「学生による授業評価」の実施方法を一部変更することになりました。昨年度よりWebアンケート形式で実施しておりますが、このたびの変更は回答率の低下等につながる実施手続き上の問題を改善するものです。

近日中に1単位科目の授業が終了することにもない、各授業担当教員のみなさまにあらかじめ、下記のとおりお知らせいたします。なお現在、実施に向けた準備を進めているところであり、運用の開始は7月中になる見込みです。

記

<授業担当教員のみなさまへのお願い>

授業の終盤等適当な機会に、学生に授業評価への回答を呼びかけてください。昨年度のように、QRコード等を提示していただく必要はありません。

〔昨年度からの主な変更点〕

- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答することになります。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課（が委託した業者）がメールにて行います（7月中）。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認することができます。
- ・各学期の回答が蓄積されていきますので、学生はいつでも過去の回答を参照することができます。

令和3年7月27日

学生 各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員長

令和3年度前期「学生による授業評価」の実施について（依頼）

本学では、授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。昨年度よりウェブアンケート形式で実施していますが、令和3年度前期からは、＜主な変更点＞にあるように、回答の手順等を変更することにしました。＜回答にあたっての留意点＞を読み、＜回答手順＞に従って回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

＜回答期限＞

令和3年9月30日（木）

＜主な変更点＞

- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答することになります。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課（が委託した業者）がメールにて行います。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認することができます。
- ・各学期の回答が蓄積されていきますので、学生はいつでも過去の回答を参照することができます。

＜回答にあたっての留意点＞

- ・複数の教員が分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をしてください。個別の評価がしたい場合は、自由記述欄に記入してください。
- ・授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。

＜回答手順＞

1. 学務課が委託した業者（wqs@heine.co.jp）からログイン情報を記したメールが届きます（7月28日（水））。
2. 届いたメールのログインURLをクリックし、ウェブページにアクセスしてください。
3. ログイン後、右上のアカウント名（学籍番号）をご確認ください。
4. 該当学期である「2021年度前期」をクリックしてください。
5. 履修登録している授業科目一覧が表示されますので、そこから選択して回答してください。
1科目につき1回限り回答が可能です。表示科目名を必ず確認のうえ、回答してください。

回答の際に、なにかご不明な点等がありましたら、下記の間合せ先までご連絡ください。

＜間合せ先＞

学務課教務企画チーム

Tel：0795-44-2356, 2348

E-mail：office-kkikaku-t@ml.hyogo-u.ac.jp

令和3年12月22日

授業担当教員 各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会
委員長 山中 一英

令和3年度後期「学生による授業評価」の実施について

平素よりFD活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

令和3年度後期「学生による授業評価」を、前期と同様の方法で実施します。授業担当教員のみなさまには、下記のとおりお願いをいたします。

なお、各学生のログインID、パスワード等は明日(12/23(木))、学務課が委託した業者から学生宛にメールにて通知されます。また回答期限は、令和4年3月23日としています。

記

<授業担当教員のみなさまへのお願い>

授業の終盤等適当な機会に、学生に授業評価への回答を呼びかけてください。昨年度のように、QRコード等を提示していただく必要はありません。

〔参考：実施方法に係る昨年度からの主な変更点〕

- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答することになります。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課（が委託した業者）がメールにて行います。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認することができます。
- ・各学期の回答が蓄積されていきますので、学生はいつでも過去の回答を参照することができます。

<問合せ先>

学務課教務企画チーム

Tel : 0795-44-2356, 2348

E-mail : office-kkikaku-t@ml.hyogo-u.ac.jp

令和3年12月22日

学生 各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員長

令和3年度後期「学生による授業評価」の実施について（依頼）

本学では、授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。今年度前期からは、＜主な変更点＞にあるように、回答の手順等を変更して実施しています。つきましては、＜回答にあたっての留意点＞を読み、＜回答手順＞に従って回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

＜回答期限＞

令和4年3月23日（水）

＜主な変更点＞

- ・学生は、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答することになります。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課（が委託した業者）がメールにて行います。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認することができます。
- ・各学期の回答が蓄積されていきますので、学生はいつでも過去の回答を参照することができます。

＜回答にあたっての留意点＞

- ・複数の教員が分担している授業の場合は、授業科目全体としての評価をしてください。個別の評価がしたい場合は、自由記述欄に記入してください。
- ・授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。

＜回答手順＞

1. 学務課が委託した業者（wqs@heine.co.jp）からログイン情報を記したメールが届きます（12月23日（木））。
2. 届いたメールのログインURLをクリックし、ウェブページにアクセスしてください。
3. ログイン後、右上のアカウント名（学籍番号）をご確認ください。
4. 該当学期である「2021年度後期」をクリックしてください。
5. 履修登録している授業科目一覧が表示されますので、そこから選択して回答してください。1科目につき1回限り回答が可能です。表示科目名を必ず確認のうえ、回答してください。

回答の際に、なにかご不明な点等がありましたら、下記の問合せ先までご連絡ください。

＜問合せ先＞

学務課教務企画チーム

Tel：0795-44-2356, 2348

E-mail：office-kkikaku-t@ml.hyogo-u.ac.jp

令和3年度授業評価 Web アンケート項目一覧

あなたの所属を選択してください。

学部 / 現職（大学院） / 現職以外（大学院） / 科目等履修生 / 特別聴講生
この授業に2 / 3以上出席しましたか。

はい / いいえ

主として、この授業は、どの授業形態で受講しましたか。

対面 / オンライン / ハイブリッド（対面とオンラインの併用）

- ① この授業は、目的が明確であり、それにふさわしい内容だった。
- ② 授業計画（シラバス）は学習する上で役立った。
- ③ 成績評価の基準・手続きが示された。
- ④ 教員の説明は、わかりやすかった。
- ⑤ テキスト・プリント等、教材・教具は役立った。
- ⑥ 教員は、学生の参加をうながすため、適切な授業方法を工夫していた。
- ⑦ 教員は、学生が質問や意見を述べられるよう配慮していた。
- ⑧ 教員の熱意や丁寧な対応が感じられた。
- ⑨ 人権、安全への配慮がなされていた。
- ⑩ 私は、授業を構成する一員であるという自覚をもって授業に臨んだ。
- ⑪ 私は、この授業からものの見方や考え方について知的刺激を受けた。
- ⑫ 私は、事前準備をして授業に臨み、授業内容を振り返り、自ら理解を深める努力をした。
- ⑬ （※複数教員担当科目のみ対象）

授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。

- ⑭ （※大学院授業科目のみ対象）

「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。

（※⑮～⑰は、オンライン、ハイブリッド授業のみ対象）

- ⑮ オンラインのメリットが活かされた授業だった。
- ⑯ この授業に集中して取り組むことができた。
- ⑰ この授業で提示された課題の量は適切であった。

①～⑰の選択肢

- 4：そのとおり
- 3：ほぼそのとおり
- 2：あまりそうではない
- 1：そうではない

- ⑱ 毎回の授業の予習・復習にかけた時間は平均どれくらいですか。

- 4：3時間以上
- 3：2時間程度
- 2：1時間程度
- 1：30分未満

自由記述欄

- ・良かった点及び改善すべき点を記入してください。
- ・複数の教員が分担している授業で、個別の評価などがあれば、記入してください。
- ・良かった点については、「ベストクラス」選定の参考とします。
- ・記述はWebサイト（学内限定）に掲載する場合があります。

【令和3年度 前期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施時期

7月28日～9月30日まで

2. 実施方法

(1)新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、Webアンケートにて実施。

(2)授業評価の実施の手順は、次のとおり。

- ・各授業の終盤で、授業担当教員が授業評価の実施の呼びかけを行う。
- ・学生自身で、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課（が委託した業者）がメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認できる。
- ・各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

(3)次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

4. 実施結果（最終集計結果）

対象科目数	468
実施科目数	444
未実施科目数	24
実施科目割合	94.9 %

【令和3年度 後期「学生による授業評価」実施状況】

1. 実施時期

12月22日～3月23日まで

2. 実施方法

(1)新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、Webアンケートにて実施。

(2)授業評価の実施の手順は、次のとおり。

- ・各授業の終盤で、授業担当教員が授業評価の実施の呼びかけを行う。
- ・学生自身で、それぞれに固有のID、パスワード等によってシステムにログインした上で回答する。各学生に対するログインID、パスワード等の通知は、学務課（が委託した業者）がメールにて行う。
- ・学生は、履修登録している授業科目一覧から選択して回答し（1科目につき1回限り）、当該授業科目に対する自らの回答ならびに履修者全体の結果を随時確認できる。
- ・各学期の回答が蓄積されていくため、学生はいつでも過去の回答を参照することができる。

(3)次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

4. 実施結果（最終集計結果）

対象科目数	428
実施科目数	393
未実施科目数	35
実施科目割合	91.8 %

実習科目の授業評価について（お願い）

日頃より、本学の FD 活動にご協力いただきありがとうございます。

実習科目の授業評価を、Office365 Forms のウェブアンケート形式により実施します。回答は一括して統計的に処理され、個人が特定されることはありません。また、回答が成績に影響することはけっしてありません。実習科目について感じたことを率直にお答えください。実習科目の改善にご協力をお願いします。

つきましては、以下の手順で Office365 Forms から今年度履修した（している）実習科目の授業評価に回答してください。

手 順：

①以下の URL をクリック

・ 1 科目目

<https://forms.office.com/r/zVxuanwCFN>

②学籍番号のメールアドレス及びパスワード入力のうえ、ログイン

（回答にはログインが必要なため学籍番号メールアドレスの入力を求めますが、回答者を特定することはありません。）

③順に従って回答のうえ、送信

※実習科目を 2 科目以上履修している場合は、以下の URL からそれぞれ回答してください。

・ 2 科目目

<https://forms.office.com/r/dEJTWG9MJZ>

・ 3 科目目

<https://forms.office.com/r/RTJLqEsvJ2>

回答期限：令和 4 年 3 月 4 日（金）

所要時間：1 科目につき約 3 分（17 問程度）

担 当：学務課教務企画チーム

Mail : office-kkikaku-t@ml.hyogo-u.ac.jp

Tel : 0795-44-2356

質問

応答

令和3年度兵庫教育大学教職大学院実習科目授業評価【1科目目】

本学教職大学院では、必修となっている実習科目について、その成果と課題を把握するため、通常の授業科目とは別様式で、授業評価を実施しています。回答は一括して統計的に処理され、個人が特定されることはありません。また、回答が成績に影響することはけっしてありません。実習に参加して感じたことを率直にお答えください。実習をより良いものにするために調査へのご協力をお願いします。

兵庫教育大学FD推進委員会

1. 学年を選んでください。 *

- ☐ P 1
- ☐ P 2
- ☐ P 3

2. 現職、ストレート等を選んでください。 *

- ☐ 現職教員
- ☐ ストレート
- ☐ その他

3. コースを選んでください。 *

- ☐ 学校経営コース
- ☐ 学校臨床科学コース
- ☐ 言語系教科マネジメントコース
- ☐ 社会系教科マネジメントコース
- ☐ 理数系教科マネジメントコース
- ☐ 小学校教員養成特別コース
- ☐ グローバル化推進教育リーダーコース
- ☐ 教育政策リーダーコース

4. 【学校経営コース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。 *

- ☐ 学校経営専門職インターンシップ
- ☐ 教育行政専門職インターンシップ

5. 【学校臨床科学コース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。*

- ☐ 学校臨床科学基盤実習
- ☐ 学校臨床科学開発・改善実習

6. 【言語系教科マネジメントコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。*

- ☐ 学校教育基盤実習
- ☐ 教科指導力向上実習

7. 【社会系教科マネジメントコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。*

- ☐ 学校教育基盤実習
- ☐ 教科指導力向上実習

8. 【理数系教科マネジメントコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。*

- ☐ 学校教育基盤実習
- ☐ 教科指導力向上実習

9. 【小学校教員養成特別コース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。*

- ☐ 実地研究I（基本実習）
- ☐ 実地研究II（発展実習）
- ☐ 実地研究リフレクションセミナー
- ☐ インターンシップ

10. 【グローバル化推進教育リーダーコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。*

- ☐ グローバル教育実践実習
- ☐ グローバル教育開発実習

- 11.【教育政策リーダーコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について1つずつ回答します）。*
- ☐ 教育政策トップリーダーインターンシップI（海外教育行政機関）
 - ☐ 教育政策トップリーダーインターンシップII（自自治体行政機関）
- 12.実習に際して、コースでの事前指導（オリエンテーション、アドバイス、情報提供、実習校との調整等）は、実習の効果的な実施に役立った。*
- ☐ 4. そのとおり
 - ☐ 3. ほぼそのとおり
 - ☐ 2. あまりそうではない
 - ☐ 1. そうではない
- 13.私は、実習に際して、自分自身の事前の準備（課題の焦点化、内容やスケジュールの検討、実習校との事前打合せ等）を適切に行うことができた。*
- ☐ 4. そのとおり
 - ☐ 3. ほぼそのとおり
 - ☐ 2. あまりそうではない
 - ☐ 1. そうではない
- 14.実習の内容や進め方は、実習目的を達成するのにふさわしいものだった。*
- ☐ 4. そのとおり
 - ☐ 3. ほぼそのとおり
 - ☐ 2. あまりそうではない
 - ☐ 1. そうではない
- 15.私は、実習での経験をその都度振り返り、理解を深める努力をした。*
- ☐ 4. そのとおり
 - ☐ 3. ほぼそのとおり
 - ☐ 2. あまりそうではない
 - ☐ 1. そうではない
- 16.私は、実習を通して、ものの見方や考え方について知的刺激を受けた。*
- ☐ 4. そのとおり

- ☐ 3. ほぼそのとおり
- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

17. 実習先での受け入れ（メンターの指導等）は、実習目的を達成するのにふさわしいものだった。 *

- ☐ 4. そのとおり
- ☐ 3. ほぼそのとおり
- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

18. 大学からの支援（教員訪問や中間報告会等）は、実習目的を達成するのに役立った。 *

- ☐ 4. そのとおり
- ☐ 3. ほぼそのとおり
- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

19. 実習の期間や時期は、実習目的を達成するのに適切なものだった。（小学校教育養成特別コースの方は、回答の必要はありません） *

- ☐ 4. そのとおり
- ☐ 3. ほぼそのとおり
- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

20. 実習は、大学院での授業科目で学んだ成果を統合できるものだった。 *

- ☐ 4. そのとおり
- ☐ 3. ほぼそのとおり
- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

21. 実習は、修了時に提出する「教育実践研究報告書」（もしくは「特定の課題についての学修の成果」）の充実に役立った。 *

- ☐ 4. そのとおり
- ☐ 3. ほぼそのとおり

- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

22. 実習は、将来、教員（教育専門職）としての資質・能力の開発に役立ちそうだ。 *

- ☐ 4. そのとおり
- ☐ 3. ほぼそのとおり
- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

23. 実習は、統合的にみて満足のいくものだった。 *

- ☐ 4. そのとおり
- ☐ 3. ほぼそのとおり
- ☐ 2. あまりそうではない
- ☐ 1. そうではない

24. その他、実習について意見があれば、記入してください。

回答を入力してください

十 新規追加

【令和3年度 「教育実践高度化専攻実習科目授業評価」実施結果】

1. 実施時期

2月7日～3月4日まで

2. 実施方法

(1)Webフォームによるアンケート調査とする。

(2)教育実践高度化専攻の学生を対象にOffice365 Formsのウェブアンケート形式を使用して実施する。

(3)次の点を学生に周知し、実施する。

- ・この調査は学生の実習への取組や理解度を把握し、実習の改善を行うために実施するものであること。
- ・回答は一括で統計的に処理され、回答が成績に影響することは全くないので、実習を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、コースにフィードバックし、実習科目の改善に活かし、公表（学内限定）する。

4. 実施結果（最終集計結果）

対象科目数	21
実施科目数	21
未実施科目数	0
実施科目割合	100.0 %

- ・履修者数 153人
- ・回答者数 93人（60.8%）

3. 「教職実践演習」にかかる「学生による授業評価」について

「教職実践演習」にかかる「学生による授業評価」について、昨年度までは、主に紙媒体のアンケート形式で実施し、一部では授業形態にあわせた Web アンケート形式で実施していた。本年度からは、全てにおいて、紙媒体及び Web アンケート形式 (Forms) の両方で実施することとなった。

なお、「教職実践演習」にかかる「学生による授業評価」の関連する資料は以下のとおり。

- ・ 令和3年度 教職実践演習「学生による授業評価」の実施について
- ・ 学生による授業評価（教職実践演習「事例研究」）
依頼文／紙媒体アンケート様式／Forms アンケート様式
- ・ 学生による授業評価（教職実践演習「模擬授業」）
依頼文／紙媒体アンケート様式／Forms アンケート様式
- ・ 学生による授業評価（教職実践演習「模擬保育」）
依頼文／紙媒体アンケート様式／Forms アンケート様式
- ・ 教職実践演習に関する調査の実施について（依頼）
- ・ 学生による授業評価（教職実践演習「まとめ [学びの総括]」）
依頼文／紙媒体アンケート様式／Forms アンケート様式

令和3年10月29日

「教職実践演習」授業担当教員各位

教職実践演習専門部会

部会長 須田 康之

令和3年度 教職実践演習「学生による授業評価」の実施について

標記のことにつきまして、FD推進委員会が実施している授業評価とは別様式で実施することとしております。

つきましては、授業評価調査票を別添のとおり送付しますので、次の手順により調査を実施いただきますようお願いいたします。

なお、授業評価の集計結果（数値）については、公開することとなっておりますので、ご承知おき願います。

（授業評価実施にあたっての留意事項）

1. 実施に当たっては、次の点を学生に周知してください。
 - （1）この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
 - （2）成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
 - （3）「事例研究」、「模擬授業」（「模擬保育」）、「まとめ[学びの総括]」に分けて評価をすることとしているので、今回、どの評価をするのかを確認すること。
2. 調査票の配付及び回収は、以下の方法でお願いします。
 - （1）教員が Forms の QR コードが記載された授業評価調査票を受講生に配付し、その場で回答させる。
 - （2）QR コードが読み取れない場合は、紙の授業評価調査票に記入させる。
 - （3）受講生の代表者は、調査票（QR コードが記載された紙も含む）を回収し回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。

本件問い合わせ先
学務課 教務チーム（学部）
内 線：2041, 2328
メール：aca-gakubu@ml.hyogo-u.ac.jp

学生による授業評価（教職実践演習「事例研究」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

下の QR コードを読み取り, forms から回答してください。(設問の数:3)

URL: <https://forms.office.com/r/bsHZiQv4gd>



学生による授業評価（教職実践演習「事例研究」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野() 系コース・ 分野)

授業を受けたクラス() クラス)

授業を振り返り、次の質問に答えてください。選択肢のうち、あてはまる番号に○をつけてください。また、()には具体的に書いてください。

問 1 この授業に関して、下記の項目①から⑪について、あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から 1 つ選んで、数字の欄に○をつけてください。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①グループでの話し合いに積極的に参加することができた。	4	3	2	1
②教員から提示された事例の内容を具体的にイメージすることができた。	4	3	2	1
③グループでの話し合いによって、自らの課題を明確にすることができた。	4	3	2	1
④納得のいく話し合いができた。	4	3	2	1
⑤グループの他のメンバーの意見を聞いて、自分の考えが深まった。	4	3	2	1
⑥事例研究で学んだ内容は、今後、教員になったときに役立つものと思った。	4	3	2	1
⑦事例研究によって、4年間の学びを総合することができた。	4	3	2	1
⑧教員からの問いかけやアドバイスによって、グループでの話し合いが活発になった。	4	3	2	1
⑨教員から提示された事例の数は適切であった。	4	3	2	1
⑩教員から提示された事例は、4年間の授業や実習の中で疑問や課題を感じたことのある内容であった。	4	3	2	1
⑪教員からの講話によって、事例に含まれる実践的課題と対応策について、新たな学びがあった。	4	3	2	1

問 2 事例研究の中で、他に取り扱って欲しいテーマがあれば、自由に記述してください。

問 3 事例研究について、改善すべき点があれば、自由に記述してください。

学生による授業評価（教職実践演習「事例研究」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

* 必須

* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. 所属コース・分野 *

- ☐ 学校教育系コース
- ☐ 幼年教育系コース
- ☐ 学校心理系コース
- ☐ 言語系コース（国語）
- ☐ 言語系コース（英語）
- ☐ 社会系コース
- ☐ 自然系コース（数学）
- ☐ 自然系コース（理科）
- ☐ 芸術系コース（音楽）
- ☐ 芸術系コース（美術）
- ☐ 生活・健康系コース（保健体育）
- ☐ 生活・健康系コース（家庭）
- ☐ 総合学習系コース

2. 授業を受けたクラス *

- ☐ I クラス
- ☐ II クラス
- ☐ III クラス
- ☐ IV クラス
- ☐ V クラス
- ☐ VI クラス
- ☐ VII クラス
- ☐ VIII クラス
- ☐ IX クラス
- ☐ X クラス
- ☐ XI クラス
- ☐ XII クラス
- ☐ 保育クラス

問 1

この授業に関して、下記の項目①から④について、あなたが思ったことを「とてもあてはまる」～「あてはまらない」の中から1つ選択してください。

3. ①グループでの話し合いに積極的に参加することができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

4. ②教員から提示された事例の内容を具体的にイメージすることができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

5. ③グループでの話し合いによって、自らの課題を明確にすることができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

6. ④納得のいく話し合いができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

7. ⑤グループの他のメンバーの意見を聞いて、自分の考えが深まった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

8. ⑥事例研究で学んだ内容は、今後、教員になったときに役立つものだった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

9. ⑦事例研究によって、4年間の学びを総合することができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

10. ⑧教員からの問いかけやアドバイスによって、グループでの話し合いが活発になった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

11. ⑨教員から提示された事例の数は適切であった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

12. ⑩教員から提示された事例は，４年間の授業や実習の中で疑問や課題を感じたことのある内容であった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

13. ⑪教員からの講話によって，事例に含まれる実践的課題と対応策について，新たな学びがあった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

問 2

14. 事例研究の中で、他に取り扱って欲しいテーマがあれば、自由に記述してください。

問 3

15. 事例研究について、改善すべき点があれば、自由に記述してください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

学生による授業評価（教職実践演習「模擬授業」）

授業の改善に役立つ目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

下の QR コードを読み取り, forms から回答してください。(設問の数:6)

URL: <https://forms.office.com/r/sAdaiJz1WB>



学生による授業評価（教職実践演習「模擬授業」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野(_____ 系コース・ _____ 分野)

授業を振り返り、次の質問に答えてください。選択肢のうち、あてはまる番号に○をつけてください。また、()には具体的に書いてください。

問 1 模擬授業を行った教科は何ですか。

1. 国語 2. 算数 3. 理科 4. 社会 5. 体育 6. 音楽 7. 図画工作 8. 家庭 9. 外国語活動(英語)

問 2 これまでの実地教育で、この教科の授業を行ったことがありますか。

1. ある 2. ない

問 3 大学の授業(コースの専門科目、初等〇〇授業研究等)で、この教科の模擬授業を行ったことがありますか。

1. ある 2. ない

問 4 この授業に関して、下記の項目①から⑦について、あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から 1 つ選んで、数字の欄に○をつけてください。なお、設問の「模擬授業」には、学習指導案の作成も含まれます。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①模擬授業を通して、その教科に関する知識や理解が深まった。	4	3	2	1
②模擬授業を通して、新たな学びがあった。	4	3	2	1
③教員の説明や助言はわかりやすかった。	4	3	2	1
④模擬授業に積極的に取り組むことができた。	4	3	2	1
⑤模擬授業を通して、教科指導や授業づくりに関する自らの課題を明確にすることができた。	4	3	2	1
⑥模擬授業を通して、これまで 4 年間の授業や実習の中で学んできた内容を確認できた。	4	3	2	1
⑦模擬授業で学んだ内容は、今後、教員になったときに役立つものと思った。	4	3	2	1

問 5 この授業で、あなたが模擬授業を行いたかった教科とその理由を書いてください。

1. 特になし 2. 教科(_____)

理由

問 6 その他良かった点及び改善すべき点などがあれば記入してください。

学生による授業評価（教職実践演習 「模擬授業」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

* 必須

1. 所属コース・分野 *

- ☐ 学校教育系コース
- ☐ 幼年教育系コース
- ☐ 学校心理系コース
- ☐ 言語系コース（国語）
- ☐ 言語系コース（英語）
- ☐ 社会系コース
- ☐ 自然系コース（数学）
- ☐ 自然系コース（理科）
- ☐ 芸術系コース（音楽）
- ☐ 芸術系コース（美術）
- ☐ 生活・健康系コース（保健体育）
- ☐ 生活・健康系コース（家庭）
- ☐ 総合学習系コース

2.問1 模擬授業を行った教科は何ですか。

- ☐ 国語
- ☐ 算数
- ☐ 理科
- ☐ 社会
- ☐ 体育
- ☐ 音楽
- ☐ 図画工作
- ☐ 家庭
- ☐ 外国語活動（英語）

3.問2 これまでの実地教育で、この教科の授業を行ったことがありますか。

- ☐ ある
- ☐ ない

4.問3 大学の授業（コースの専門科目，初等〇〇授業研究等）で，この教科の模擬授業を行ったことがありますか。

- ☐ ある
- ☐ ない

問4

この授業に関して、下記の項目①から⑦について、あなたが思ったことを「とてもあてはまる」～「あてはまらない」の中から1つ選択してください。なお、設問の「模擬授業」には、学習指導案の作成も含まれます。

5. ①模擬授業を通して、その教科に関する知識や理解が深まった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

6. ②模擬授業を通して、新たな学びがあった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

7. ③教員の説明や助言はわかりやすかった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

8. ④模擬授業に積極的に取り組むことができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

9. ⑤模擬授業を通して、教科指導や授業づくりに関する自らの課題を明確にすることができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

10. ⑥模擬授業を通して、これまで4年間の授業や実習の中で学んできた内容を確認できた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

11. ⑦模擬授業で学んだ内容は、今後、教員になったときに役立つものだった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

問5

この授業で、あなたが模擬授業を行いたかった教科とその理由を書いてください。

12. 授業

- ☐ 特になし
- ☐ 国語
- ☐ 算数
- ☐ 理科
- ☐ 社会
- ☐ 体育
- ☐ 音楽
- ☐ 図画工作
- ☐ 家庭
- ☐ 外国語活動（英語）
- ☐
その他

13. 理由

問 6

14. その他良かった点及び改善すべき点などがあれば記入してください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

学生による授業評価（教職実践演習「模擬保育」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

下の QR コードを読み取り, forms から回答してください。(設問の数:5)

URL: <https://forms.office.com/r/RFk6z9wgvD>



学生による授業評価（教職実践演習「模擬保育」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野(_____ 系コース・ _____ 分野)

授業を振り返り、次の質問に答えてください。選択肢のうち、あてはまる番号に○をつけてください。また、() には具体的に書いてください。

問1 何歳児の模擬保育を行いましたか。(_____)歳児

問2 これまでの実習で、この年齢児の保育を行ったことがありますか。

1. ある 2. ない

問3 大学の授業(コースの専門科目、保育内容〇〇論等)で、この年齢児の模擬保育を行ったことがありますか。

1. ある 2. ない

問4 この授業に関して、下記の項目①から⑦について、あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から 1 つ選んで、数字の欄に○をつけてください。なお、設問の「模擬保育」には、指導案の作成も含まれます。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①模擬保育を通して、その年齢児の保育に関する知識や理解が深まった。	4	3	2	1
②模擬保育を通して、新たな学びがあった。	4	3	2	1
③教員の説明や助言はわかりやすかった。	4	3	2	1
④模擬保育に積極的に取り組むことができた。	4	3	2	1
⑤模擬保育を通して、子どもへの指導や保育展開に関する自らの課題を明確にすることができた。	4	3	2	1
⑥模擬保育を通して、これまで4年間の授業や実習の中で学んできた内容を確認できた。	4	3	2	1
⑦模擬保育で学んだ内容は、今後、保育者になったときに役立つものと思った。	4	3	2	1

問5 その他良かった点及び改善すべき点などがあれば記入してください。

学生による授業評価（教職実践演習 「模擬保育」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

* 必須

* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. 所属コース・分野 *

- ☐ 学校教育系コース
- ☐ 幼年教育系コース
- ☐ 学校心理系コース
- ☐ 言語系コース（国語）
- ☐ 言語系コース（英語）
- ☐ 社会系コース
- ☐ 自然系コース（数学）
- ☐ 自然系コース（理科）
- ☐ 芸術系コース（音楽）
- ☐ 芸術系コース（美術）
- ☐ 生活・健康系コース（保健体育）
- ☐ 生活・健康系コース（家庭）
- ☐ 総合学習系コース

2.問1 何歳児の模擬保育を行いましたか。()歳児 ※半角数字のみで回答欄に入力してください

3.問2 これまでの実習で、この年齢児の保育を行ったことがありますか。

☐ ある

☐ ない

4.問3 大学の授業（コースの専門科目，保育内容〇〇論等）で、この年齢児の模擬保育を行ったことがありますか。

☐ ある

☐ ない

問 4

この授業に関して、下記の項目①から⑦について、あなたが思ったことを「とてもあてはまる」～「あてはまらない」の中から1つ選択してください。なお、設問の「模擬保育」には、指導案の作成も含まれます。

5. ①模擬保育を通して、その年齢児の保育に関する知識や理解が深まった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

6. ②模擬保育を通して、新たな学びがあった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

7. ③教員の説明や助言はわかりやすかった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

8. ④模擬保育に積極的に取り組むことができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

9. ⑤模擬保育を通して、子どもへの指導や保育展開に関する自らの課題を明確にすることができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

10. ⑥模擬保育を通して、これまで4年間の授業や実習の中で学んできた内容を確認できた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

11. ⑦模擬保育で学んだ内容は、今後、保育者になったときに役立つものだったと思った。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

問 5

12. その他良かった点及び改善すべき点などがあれば記入してください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

令和3年11月17日

「教職実践演習（まとめ）」授業担当教員各位

教職実践演習専門部会
部会長 須田 康之

教職実践演習に関する調査の実施について（依頼）

教職実践演習は、教職課程の質的水準の向上のために新設され、教員免許状取得において必修科目にされています。そこで、教職実践演習の教育効果や課題を明らかにするために、FD推進委員会が実施している授業評価とは別様式で、学生と担当教員を対象とした質問紙調査を実施することとしており、本調査結果を踏まえて、授業内容・方法の充実と改善を図りたいと考えております。

回答は全体として集計・分析されます。また、データが調査目的以外のために使用されることはありません。データの照合にあたっては、個人情報が出漏れないように慎重に取り扱います。なお、研究成果を公表する場合には、個人が特定できないようにした上で、回答していただいた内容を例示的に用いることはあります。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、実施にご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

<実施方法について>

1. 学生による授業評価

「まとめ」（第14回、第15回）の授業の終わりに、調査票を学生に配付し、その場で Forms に回答を入力させてください。

※別添「令和3年度教職実践演習「学生による授業評価」の実施について」をご参照願います。

2. 授業担当教員対象の調査

「まとめ」（第14回、第15回）の実施後、下記 QR コード (<https://forms.office.com/r/xZ59maAZua>) にアクセスし、Forms により調査にご回答願います。



本件問い合わせ先
学務課 教務チーム（学部）
内 線：2041, 2328
メール：aca-gakubu@ml.hyogo-u.ac.jp

【まとめ[学びの総括]】

学生による授業評価(教職実践演習「まとめ[学びの総括]」)

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

下の QR コードを読み取り, forms から回答してください。(設問の数:3)

URL: <https://forms.office.com/r/TVtcFnspNy>



【まとめ[学びの総括]】

学生による授業評価(教職実践演習「まとめ[学びの総括]」)

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野() 系コース・ () 分野)

問1 「まとめ[学びの総括]」の授業(第14回, 15回)に関して, 下記の項目①～⑦について, あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から1つ選んで, 数字の欄に○をつけてください。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①「まとめ[学びの総括]」を通して, 大学4年間で身につけた資質能力が明確になった。	4	3	2	1
②「まとめ[学びの総括]」を通して, 教職に就くにあたっての自己の取り組むべき課題が明確になった。	4	3	2	1
③これまで CanPass ノートに記入してきた「学修成果シート」※及び「卒業準備ファイル」は, 「まとめ[学びの総括]」において活用できた。	4	3	2	1
④「まとめ[学びの総括]」では, 「学修成果シート」※及び「卒業準備ファイル」を用いてグループ討論等を行うことによって, 自分では気づかなかったことを知ることができたり, 様々な視点から自分の学びを深めたりすることができた。	4	3	2	1
⑤「まとめ[学びの総括]」を通して, 教職に就くにあたっての自覚や意欲がわいた。	4	3	2	1
⑥「まとめ[学びの総括]」を通して, 教師として学び続けることの必要性を感じた。	4	3	2	1
⑦「まとめ[学びの総括]」において指導していただいた教員の指導内容は, 4年間の学びの成果を振り返ったり, 深めたりする上で役に立つものであった。	4	3	2	1

※理数系教員養成特別プログラムの学生は「教職に向けた学びの記録」とする。

問2 「まとめ[学びの総括]」(第14回, 15回)の授業の内容や実施方法などについて, 課題や改善すべき点があれば下欄にお書きください。

最後に, 「教職実践演習」全体(事例研究, 模擬授業, まとめ[学びの総括])について質問します。

問3 全15回の教職実践演習の授業を通して, 次の3点についてあなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から1つ選んで, 該当する数字の欄に○をつけてください。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①教職実践演習を通して, 大学4年間で身に付けた資質能力が有機的に統合され, 形成されていることを自覚することができた。	4	3	2	1
②教職実践演習を通して, 将来教師になる上で, 自分にとって何が課題であるか自覚できた。	4	3	2	1
③教職実践演習を通して, 自分が不足している知識や技能を補うことができた。	4	3	2	1

学生による授業評価（教職実践演習 「まとめ〔学びの総括〕」）

授業の改善に役立てる目的で、学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が、皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

* 必須

1. 所属コース・分野 *

- ☐ 学校教育系コース
- ☐ 幼年教育系コース
- ☐ 学校心理系コース
- ☐ 言語系コース（国語）
- ☐ 言語系コース（英語）
- ☐ 社会系コース
- ☐ 自然系コース（数学）
- ☐ 自然系コース（理科）
- ☐ 芸術系コース（音楽）
- ☐ 芸術系コース（美術）
- ☐ 生活・健康系コース（保健体育）
- ☐ 生活・健康系コース（家庭）
- ☐ 総合学習系コース

問 1

「まとめ〔学びの総括〕」の授業（第14回，15回）に関して，下記の項目①～⑦について，あなたが思ったことを「とてもあてはまる」～「あてはまらない」の中から1つ選択してください。

※理数系教員養成特別プログラムの学生は「教職に向けた学びの記録」とする。

2. ①「まとめ〔学びの総括〕」を通して，大学4年間で身につけた資質能力が明確になった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

3. ②「まとめ〔学びの総括〕」を通して，教職に就くにあたっての自己の取り組むべき課題が明確になった。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

4. ③これまでCanPassノートに記入してきた「学修成果シート」※及び「卒業準備ファイル」は，「まとめ〔学びの総括〕」において活用できた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

5. ④「まとめ〔学びの総括〕」では、「学修成果シート」※及び「卒業準備ファイル」を用いてグループ討論等を行うことによって、自分では気づかなかったことを知ることができたり、様々な視点から自分の学びを深めたりすることができた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

6. ⑤「まとめ〔学びの総括〕」を通して、教職に就くにあたっての自覚や意欲がわいた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

7. ⑥「まとめ〔学びの総括〕」を通して、教師として学び続けることの必要性を感じた。

- ☐ とてもあてはまる
- ☐ あてはまる
- ☐ 少しあてはまる
- ☐ あてはまらない

8. ⑦「まとめ〔学びの総括〕」において指導していただいた教員の指導内容は、4年間の学びの成果を振り返ったり、深めたりする上で役に立つものであった。

☐ とてもあてはまる

☐ あてはまる

☐ 少しあてはまる

☐ あてはまらない

問 2

9. 「まとめ〔学びの総括〕（第14回, 15回）」の授業の内容や実施方法などについて、課題や改善すべき点があれば下欄に入力してください。

4. 「ベストクラス」の選定・公表

平成27年度から選考を開始した「ベストクラス」について、本年度は、令和2年度開講科目の「ベストクラス」として12の授業科目を選定した。

●「ベストクラス」という概念について

「ベストティーチャー賞」なら、すでにいくつもの大学が制度として導入しているが、本学は、「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」である。なぜ「ベストティーチャー」でないのか、そして、なぜ「賞」でないのか。ここに、「ベストクラス」という概念に込められたユニークな企図がある。

なぜ「ベストティーチャー」でないのか。授業は教員の努力だけでよいものにはならない。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなる。そうだとしたら、授業を担当する教員にのみ焦点があてられる「ベストティーチャー」という表現はふさわしくない。

なぜ「賞」でないのか。「ベストクラス」は、優れた授業のモデルや規準を定め、それにあてはまるものを選ぶのではない。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずであり、それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招きかねない。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性がある。このように考えたとき、「賞」はなじまない。

●「ベストクラス」の選定

「ベストクラス」の選定にあたっては、学生と教職員がFDについて公式に協議する「学生・教職員FD活動交流会」が大きな役割を果たしている。

選定の流れは、次の通りである。まず、前年度の授業評価結果の自由記述を検討して候補となる授業科目を選ぶ。つぎに、「学生・教職員FD活動交流会」のメンバーが、授業担当教員と受講者の双方にインタビューを行い、選定理由書を作成する。そして、それをFD推進委員会で議論して最終的に選定するのである。

この過程では、学生と教職員が協働して作業にあたる。よい授業とはなにか、率直な意見交換が行われ、学生にとっても教職員にとっても、授業について思考する刺激的で貴重な機会となっている。

●「ベストクラス」の目的

本学の教育の質の向上のため、よい授業を教職員と学生が共有することにある。選ばれた授業科目のそれぞれにある「持ち味」を共有していただければ幸いである。

●ベストクラス選定科目の授業公開

よい授業を教員間で共有することを目的としたベストクラス選定科目の授業公開については、本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施しないこととした。

ベストクラス選定結果一覧（令和２年度開講科目）

令和3年9月29日 第3回FD推進委員会

課程	科目名称	履修年次	科目区分	受講者数	R2年度 開設状況
学部	社会の中の言語文化	1	教養科目群／社会課題探究科目	104	前期 火4
	調理学実習	2	専門科目群／教科教育専門科目（家庭）	16	後期 金1、2
	国語学Ⅰ	2	専門職科目群／教科教育専門科目（国語）	43	後期 金2
	初等家庭科教育法（①クラス）	2	教育実践・リフレクション科目群／初等教科指導法	186	後期 木2
大学院（修士）	心理統計研究法演習（昼間クラス）	1	専攻科目／専門科目	13	前期 水2
	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション	1	専攻科目／特別支援教育を多面的に理解する科目群	18	前期 木2
	障害者福祉論	1	専攻科目／特別支援教育の理論と実践を学ぶ科目群	35	前期 木5
	教育コミュニケーション実践論（夜間クラス）	1	専攻科目／専門科目	10	後期 火7
大学院（専門職）	実用外国語演習（昼間クラス）	1	専門科目	5	前期 水2、時間外
	包括的児童生徒支援に関する事例研究（昼間①クラス）	1	共通基礎科目	33	前期 木1
	学校における特別支援教育への対応と方法（昼間①クラス）	1	共通基礎科目	37	後期 火1
	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際（昼間①クラス）	1	共通基礎科目	39	後期 月2

平成 27 年 3 月 13 日
F D 推進委員会決定
改正 令和 3 年 6 月 17 日

ベストクラスの選定について

1. ベストクラス選定の目的

ベストクラスは、本学の教育の質の向上のために、よい授業を教職員と学生が共有することを目的に選定されるものである。

2. 選定手続き

①選定は、前年度授業評価結果を参考にし、学生・教職員 F D 活動交流会での検討に基づいて、F D 推進委員会において行われる。

②授業評価の高評価授業科目を対象とし、原則として評価項目の平均値が 3.5 以上のものとする。ただし、選考基準平均値は、評価結果を考慮して設定できるものとする。

③高評価自由記述を検討して、よい授業を 10 程度に絞り込む。その際、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れる。

- ・学校教育学部 81 人以上、80～31 人、30 人以下
- 修士課程 31 人以上、30 人以下
- 専門職学位課程 31 人以上、30 人以下
- ・講義、演習、実験など

④候補とされた授業の担当教員と受講者（授業担当教員の推薦による）に学生・教職員 F D 活動交流会がインタビューを行い、検討資料とする。

- ・授業者に対しては、授業の意図、当該授業での授業意図の共有度、学生の参画度、当該授業の良さと課題など
- ・受講者に対しては、うけとった授業の意図、参画度、知的刺激、知識の創造など

3. 選定された授業科目の公表方法等

①ベストクラスとして冊子、本学 W e b サイトで紹介する。

内容は

- ・授業名（履修年次、科目区分）、開講時期（時限）、教室環境、受講者数など
- ・選定理由
- ・授業者の意図と授業の振り返り、授業での工夫点、今後に向けた改善点
- ・受講者の参画度インタビュー、この授業のオススメポイント

②アクティブ・ラーニング研究会での公開授業の候補とする。

以上

5. アクティブ・ラーニング研究会の実施

本年度のアクティブ・ラーニング研究会は、教員養成・研修高度化センター（FD デザインチーム）との共催で（Society5.0×Teacher Education 研究会として）2回実施した（下表参照）。

	開催日	講師	テーマ	共催
第1回	2021. 11. 18	松木健一氏 (福井大学理事・副学長)	教師教育と省察的实践	教員養成・研修高度化センター (FD デザインチーム)
第2回	2022. 3. 2	中野民夫氏 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)	「教える」より「学び合う」 場を創ろう！オンライン &ハイブリッド時代の参加型授業のつくり方	教員養成・研修高度化センター (FD デザインチーム)

また、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ベストクラス選定科目の授業公開・研究会は実施しなかった。

第7回CReATE Seminar【Society5.0×Teacher Education 研究会（第1回）】の開催について

教員養成・研修高度化センターFDデザインチーム

（山中・岸田・筒井・奥村）

■ 研究会

講演者：松木健一氏（福井大学理事・副学長）

日時：令和3年11月18日（木）5時限（16:30～18:00）

方法：Zoomによるオンライン形式

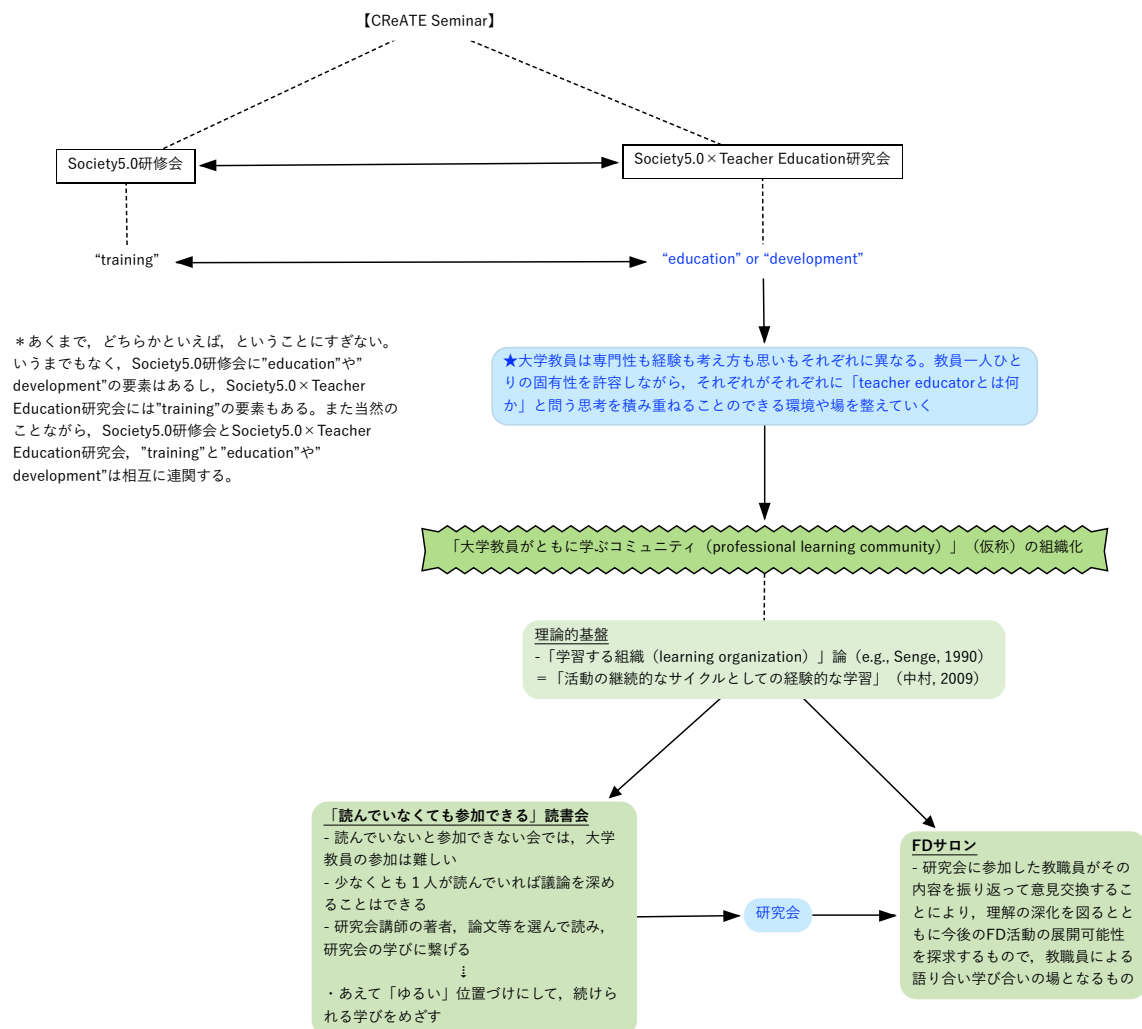
内容：

- 本学の教育課程あるいは教員養成スタンダードなどには、「省察」「リフレクション」という言葉をいくつもみつけることができる。「省察」「リフレクション」は、本学の教員にとっても学生にとっても、きわめて馴染み深い言葉になっている。
- しかしながら一方で、この「省察」「リフレクション」という概念の理解は、それほど容易でないとも感じる。「省察」「リフレクション」とは何かとあらためて問われても、なかなかすんなりと回答できないのが現状なのではないか。あるものは「振り返り」の代替として、別のものは「反省」の意味で使っているかもしれない。「内省」と同義だと考えているものもあるだろう。
- 厳格に意味を統一する必要はないと思われるものの、これらの概念が教師教育の核心に位置し、教員の専門性や力量形成と密接不可離のものである限り、そして私たちがTeacher Educatorの役割を誠実に果たそうとするなら、これらの概念に関する議論を日々繰り返す、それを通して思考を積み重ねていくことが切に求められているのではないか。
- 研究会での問いの例
 - ①「省察」「リフレクション」とは何か
 - ② 教員の専門性や力量形成にとって、なぜ「省察」「リフレクション」が必要なのか
 - ③「省察」「リフレクション」を促すためにTeacher Educatorとしての大学教員に求められることは何かこれらの問いはどれも、教師教育にとって基盤的で根源的なものであるにちがいない。
- 「省察は単に過去を振り返ることではない。今に向かって構造化してしまう物語を、未来に向かって語りなおし（再構造化）することである」（松木, 2013; 『スクールリーダー研究』第4号）。この文章の意味を理解しようとするれば、必然的に教員の専門性や力量形成を考えることに繋がる。こうした営みが、私たちにとっては大きな学びになると期待される。

* 研究会までに「『読んでいなくても参加できる』読書会」を開催し、終了後には「FDサロン」を実施する予定です。

□ 基本コンセプト

- Society 5.0 時代の教師教育の展開可能性を見据えつつ、新任教員の養成と現職教員の力量形成を担う大学教員の継続的な職能成長のための研修プログラム等を研究開発する。
- Goal: Society 5.0 時代における専門職としての teacher educator の育成



第7回 CReATE Seminar 【Society5.0×Teacher Education 研究会（第1回）】

事後アンケート結果

- 開催日時：令和3年11月18日（木）5時限（16:30～18:00）
- 参加者数：25名（大学教員19名，事務職員6名）
- 回答者数：10名（大学教員10名）
- 満足度：4.60（5段階）

令和3年度FDサロン（令和3年度第1回）

事後アンケート結果

- 開催日時：令和3年11月18日（木）18:00～18:30
- 参加者数：14名（大学教員10名，事務職員4名）
- 回答者数：4名（大学教員4名）
- 満足度：5.00（5段階）

第9回 CReATE Seminar 【Society5.0×Teacher Education 研究会（第2回）】の開催について

教員養成・研修高度化センターFD デザインチーム

（山中・岸田・筒井・奥村）

■ 研究会

タイトル：「教える」より「学び合う」場を創ろう！オンライン&ハイブリッド時代の参加型授業のつくり方

講師：中野 民夫 氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

日時：令和4年3月2日（水）2時限（10:40～12:10）

講演要旨：「日本でもここ20年位の間に、参加体験型のワークショップや参加型の場をつくる技法ファシリテーションが分野を超えて広がってきた。この普及に貢献してきた講師（中野）は、ここ10年ほどは大学教育に活かすべく、対話を重視した参加型授業を目指して奮闘してきた。東工大のリベラルアーツ研究教育院での事例などを元に、教員が一方的に「教える」よりも学生同士が「学び合う」場をどう調えたら良いのか、対面とオンラインの両方の事例を通してお伝えしたい。」
（講師による講演要旨です）

関連書籍：『ワークショップー新しい学びと創造の場ー』（岩波書店；2001年）

『学び合う場のつくり方 本当の学びへのファシリテーション』（岩波書店；2017年）

『えんたくん革命 1枚のダンボールがファシリテーションと対話と世界を変える』（みくに出版；2018年）

など

方法：Zoomによるオンライン形式

対象：本学教職員

主催：教員養成・研修高度化センター

共催：FD推進委員会

◆「読んでいなくても参加できる」読書会

日時：令和4年2月22日（火）2時限（10:40～12:10）

方法：Zoomによるオンライン形式

主催：教員養成・研修高度化センター

共催：FD推進委員会

◆FDサロン

日時：令和4年3月2日（水）研究会終了後（12:10～12:40）

方法：Zoomによるオンライン形式

主催：教員養成・研修高度化センター

共催：FD推進委員会

第9回 CReATE Seminar 【Society5.0×Teacher Education 研究会（第2回）】

事後アンケート結果

- 開催日時：令和4年3月2日（木）2時限（10:40～12:10）
- 参加者数：49名（大学教員40名，事務職員9名）
- 回答者数：18名（大学教員16名，事務職員2名）
- 満足度：4.72（5段階）

「読んでいなくても参加できる」読書会（令和3年度第2回）

事後アンケート結果

- 開催日時：令和4年2月22日（火）2時限（10:40～12:10）
- 参加者数：10名（大学教員7名，事務職員3名）
- 回答者数：5名（大学教員3名，事務職員2名）
- 満足度：4.80（5段階）

令和3年度 FD サロン（令和3年度第2回）

事後アンケート結果

- 開催日時：令和3年3月2日（水）12:10～12:40
- 参加者数：15名（大学教員11名，事務職員4名）
- 回答者数：5名（大学教員5名）
- 満足度：5.00（5段階）

6. 学生・教職員 FD 活動交流会の実施

本年度は、学生・教職員 FD 活動交流会を計 5 回開催した（下記参照）。

	内容
第 1 回	学生・教職員 FD 活動交流会、ベストクラスについて趣旨等の説明
第 2 回	ベストクラス選定作業
第 3 回	ベストクラス選定候補科目について発表、意見交換（ベストクラスの選定過程等について）
第 4 回	意見交換（授業評価のあり方について〔①授業評価の意味の再構成、②授業評価の実施方法（記名化、中間評価の実施等）〕）
第 5 回	意見交換（学生メンバーのメンバーシップについて、今年度、交流会に学生メンバーとして活動して感じたこと等）

例年、学生・教職員 FD 活動交流会はベストクラス候補となる授業科目の選定を主たる活動としてきたが、本年度は第 1 回学生・教職員 FD 活動交流会において本交流会及びベストクラスについて趣旨説明を行う機会を設けた。さらに、第 3 回から第 5 回では、上記の幅広いトピックについて率直な意見交換を行った。

第1回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

令和3年6月2日（水） 14：50～16：00

《会議形式》 zoomによる開催

《参加者》	34名	(内訳)	大学院学生	15名
			学部学生	10名
			教員	7名
			事務職員	2名

《実施内容》

1. 座長から、配付資料に基づき、学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスの趣旨等について説明が行われ、引き続き、ベストクラス選定にかかる具体的手順等について説明が行われた。
2. 上記説明についての質疑応答が行われた。
3. 次回以降の内容について確認及び今年度の活動への協力依頼が行われた。
 - ① 6月下旬から7月上旬までに次回交流会を開催の上、選定作業を実施すること。
 - ② 8月末までに「ベストクラス候補選定理由書」を作成すること。
 - ③ 9月中に第3回学生・教職員FD活動交流会を開催し、ベストクラス候補を選定すること。

第2回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

令和3年6月22日（火） 16：30～18：00

《会議形式》 zoomによる開催

《参加者》 30名	（内訳）	大学院学生	12名
		学部学生	7名
		教員（学長含む）	8名
		事務職員	3名

《実施内容》

1. ベストクラス選定にかかる趣旨及び具体的手順の確認が行われた。
2. 班分け一覧の配付資料に基づき、zoomのブレイクアウトセッション機能を使用し、課程別にグループ毎の選定作業が行われた。
3. 各グループ（A班～F班）のベストクラス候補選定結果の共有が行われた。
4. 次回の内容について確認が行われた。
 - ① 8月中を目処にインタビュー等を実施すること（日程等については各班で調整する）。
 - ② 8月末までにベストクラス候補選定理由書を作成すること。
 - ③ 9月中に学生・教職員FD活動交流会を開催し、ベストクラス候補を選定すること。

第3回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

令和3年9月22日（水） 14：50～16：20

《会議形式》 zoom による開催

《参加者》	30名	（内訳）大学院学生	12名
		学部学生	6名
		教員（学長含む）	9名
		事務職員	3名

《実施内容》

1. ベストクラス選定手順の確認を行った。
2. 配付資料の「ベストクラス候補選定理由書」に基づき、候補科目について検討の結果、授業担当教員から辞退の申し出があつた1科目を除く、12科目をベストクラス選定候補として、9月29日開催のFD推進委員会に推薦することとなった。
3. ベストクラスの選定過程等について意見交換を行った。
4. 次回開催日については、11月中旬を目処に後日、事務局から日程照会を行う。

第4回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

【1回目】令和3年11月26日（金）10：40～12：00

【2回目】令和3年12月8日（水）16：00～17：00

《会議形式》 zoomによる開催

《参加者》 1回目（11/26）…18名

2回目（12/8）…14名

（内訳）

1回目

2回目

大学院学生

7名

6名

学部学生

0名

3名

教員（学長含む）

8名

2名

事務職員

3名

3名

《実施内容》

1. 授業評価のあり方について意見交換

授業評価のあり方について、全体で意見交換を行った。出された意見については、別紙（令和3年度第4回 学生・教職員FD活動交流会記録メモ）のとおり。

2. 次回交流会開催日については、後日、事務局から日程照会を行う。

第5回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

令和4年2月14日（月）13：10～14：15

《会議形式》 zoom による開催

《参 加 者》	25名	（内訳）	大学院学生	13名
			学部学生	3名
			教員	6名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 第4回学生・教職員活動交流会で出された意見について
2. 学生メンバーのメンバーシップについて
3. 学生・教職員FD活動交流会に参加した感想・意見等について
 - ・今年度、本交流会に学生メンバーとして活動して感じたこと
（良かった点、学びになった点、今後取り入れてほしいことなど）
2. 3. については、全体で意見交換を行った。出された意見については、＜別紙＞のとおり。
4. 今回の交流会は今年度最後となるため、学生メンバーとしての協力に対し、謝辞を行った。
また、今年度、学生メンバーとして活動交流会に参加して下さった学生に大学グッズ（JET STREAM）を渡したい旨の説明を行い、総合研究棟1階教務企画チーム窓口又は神戸HLC事務室まで取りに来ていただくよう依頼を行った。

令和3年度学生・教職員FD活動交流会に関するアンケート結果について

《アンケート実施期間》 令和4年2月14日（月）～2月28日（月）

《実施方法》 Office365 Forms による実施

《回答者数》 10名 (内訳) 大学院学生 8名
学部学生 2名

《アンケート内容》

今年度、学生メンバーとして活動して感じたこと

(良かった点、学びになった点、今後取り入れてほしいことなど)

7. 令和3年度 他大学等のFD研究会等参加状況一覧

令和3年度他大学等主催のFD研究会等への参加状況は以下のとおりである。

No.	所属	役職	氏名	用務内容	日程	実施方法
1	人間発達教育専攻 学校心理・学校健康教育・ 発達支援コース	教授	岡本 希	大学コンソーシアムひょうご神戸主催 「オンライン授業の設計とBYODの活用を考える」	2021/11/2(火)	オンライン

Ⅲ 資 料

本学におけるF Dの定義について

兵庫教育大学におけるF Dとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

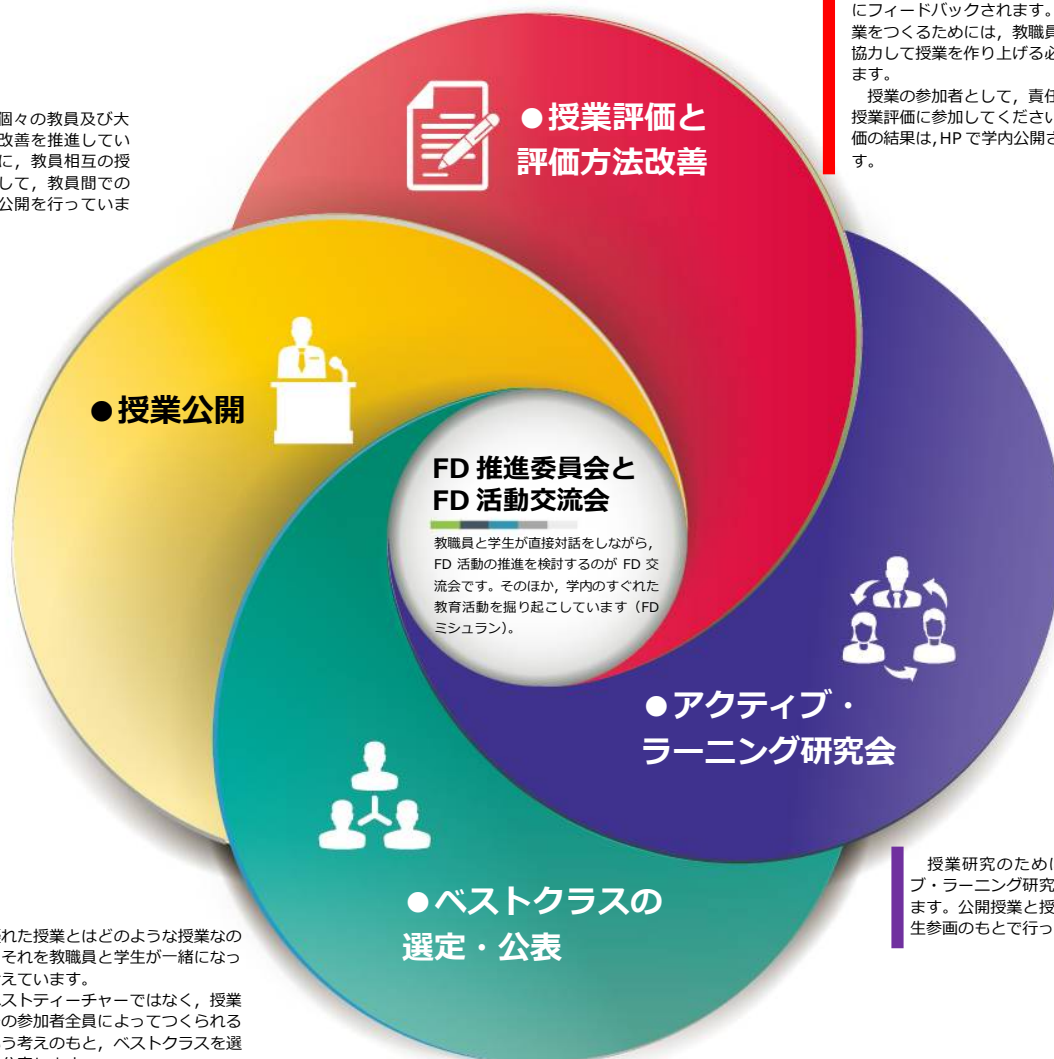
- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をF D活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 17 号)

改正	平成 17 年 3 月 31 日	平成 17 年 9 月 6 日
	平成 18 年 3 月 8 日	平成 18 年 7 月 12 日
	平成 18 年 12 月 6 日	平成 19 年 3 月 14 日
	平成 20 年 1 月 16 日	平成 20 年 3 月 11 日
	平成 23 年 3 月 14 日	平成 24 年 3 月 26 日
	平成 25 年 4 月 2 日	平成 28 年 1 月 13 日
	平成 29 年 3 月 29 日	平成 29 年 6 月 30 日
	平成 31 年 2 月 12 日	
	令和 2 年 3 月 26 日	令和 2 年 3 月 11 日

(設置)

第 1 条 国立大学法人兵庫教育大学(以下「本学」という。)におけるファカルティ・ディベロップメント(教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。)の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長のうち学長が指名した者 1 人
- (2) FD 推進担当の学長特別補佐
- (3) 次のア、イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 2 人
 - イ 特別支援教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 1 人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 3 人
- (4) 学長が指名した者

2 前項第 3 号及び第 4 号に規定する委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第 3 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第 1 項第 2 号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FD に係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他 FD に関すること。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月31日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成17年9月6日)

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則(平成18年3月8日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成18年7月12日)

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則(平成18年12月6日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月14日)

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成20年1月16日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 11 日)

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 14 日)

- 1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず平成 24 年 3 月 31 日までとする。

附 則(平成 24 年 3 月 26 日)

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 4 月 2 日)

この規程は、平成 25 年 4 月 2 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 28 年 1 月 13 日)

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行後第 2 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則(平成 29 年 3 月 29 日)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 6 月 30 日)

この規程は、平成 29 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 2 月 12 日)

- 1 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に改正前の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき特別支援教育専攻から推薦された委員である者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき同専攻から推薦された委員、教科教育実践開発専攻に所属する者として専攻から推薦された委員である者のうち、芸術系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき人間発達教育専攻に所属する者として専攻から推薦された委員、理数系教育コースに所属する者は、改正後の第 2 条第 1 項第 3 号の規定に基づき教育実践高度化専攻に所属する者として専攻から推薦された委員であるとみなし、その任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず残任期間と同一の期間とする。

附 則(令和 2 年 3 月 11 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 26 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

平成 21 年 11 月 6 日
学 長 裁 定
改正 平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

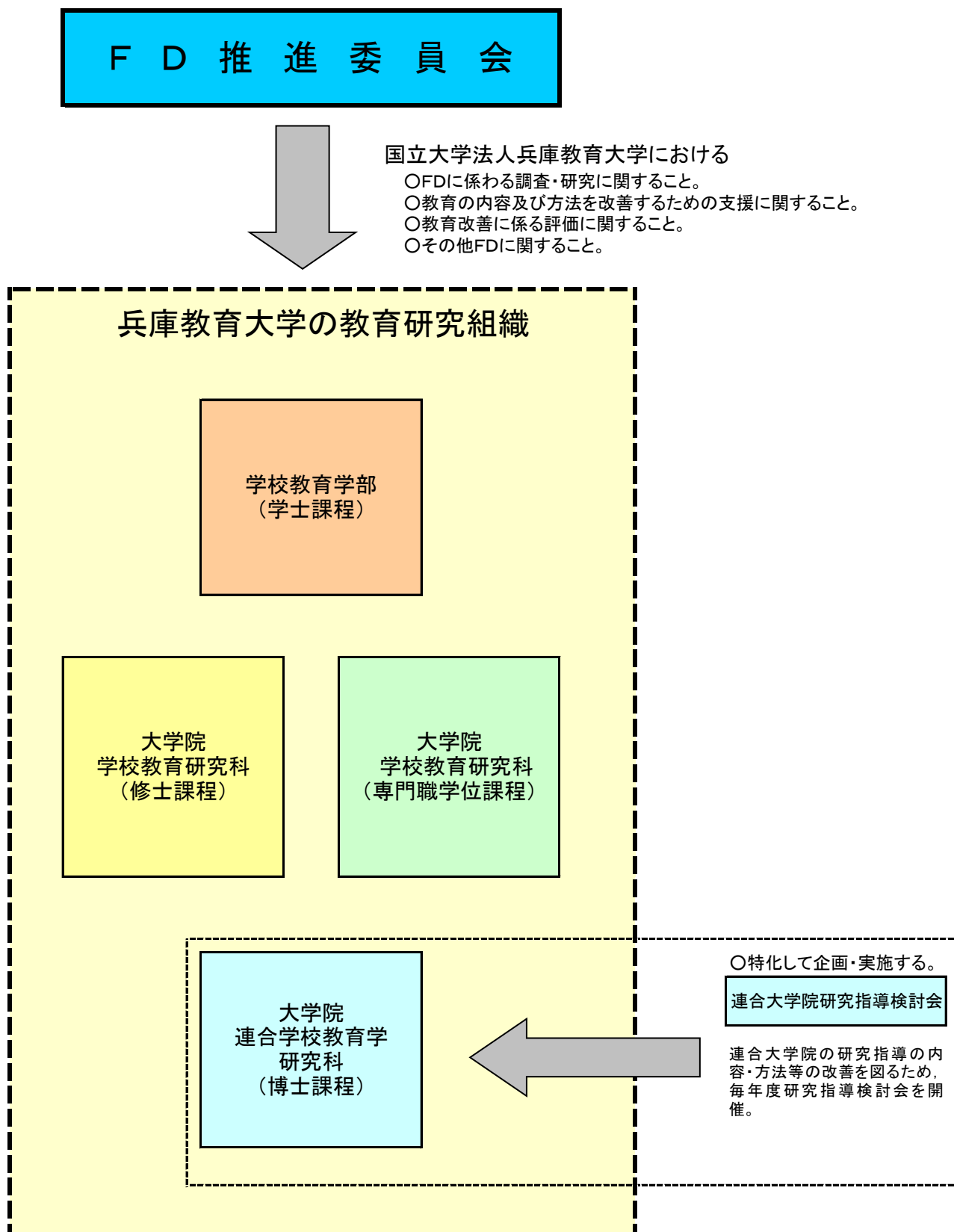
3 公開期間

各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教職員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

FD活動

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

令和3年4月1日

所 属 等	職 名	氏 名	任 期	備 考
—	副学長	須田 康之	—	第1号委員
—	学長特別補佐 (FD推進担当)	山中 一英	—	委員長 第2号委員
人間発達教育専攻 学校心理・学校健康教育・発達支援コース	教 授	西岡 伸紀	R2.4.1 ～R4.3.31	第3号委員
人間発達教育専攻 臨床心理学コース	助 教	池田 浩之	R3.4.1 ～R5.3.31	〃
特別支援教育専攻 発達障害支援実践コース	准教授	石橋 由紀子	R3.4.1 ～R4.3.31	〃
教育実践高度化専攻 言語系教科マネジメントコース	教 授	山口 眞琴	R3.4.1 ～R5.3.31	〃
教育実践高度化専攻 理数系教科マネジメントコース	准教授	川内 充延	R2.4.1 ～R4.3.31	〃
教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別コース	教 授	前芝 武史	R3.4.1 ～R5.3.31	〃
—	副学長	吉水 裕也	R3.4.1 ～R5.3.31	第4号委員